

あすへ 3.11 掲示板

避難生活親子に潤いを

出前方式サロン 一軒家にカフェ

山形・NPO集いの場設置



ざくばらんな雰囲気の中で語らう、福島から避難している母親たち。月1回の交流の場だ

子育てしやすい地域づくりに取り組むNPO法人「やまがた育児サークルランド(山形市)」が、福島第一原発事故を受け山形で避難生活を送る親子の支援活動を、多面的に展開している。転動で

慣れない土地で暮らす母親らのサポートを長く続けてきた経験を持つ者にも応用。悩みやニーズにきめ細かく目配りし、避難生活に潤いを与える工夫を重ねている。

山形市の滝山コミュニティセンターで4月26日、小学生の子どもと避難してきた母親たちが語る「サロンIN滝山」に約20人が集った。同NPOが呼び掛けて昨年10月に始まり、月1回開いている。回を重ねるごとに気が通じ合うようになり、母親たちは約2時

間、和やかな懇談の時間を、親同士の共通した話題を見つけて共有した。

同NPOの担当者三浦照子さんは「避難しているお母さんの中には、幼い子と一緒にいないと子育て支援の交流の場に出づらと思う人もいます。そうした面に配慮し、子どもが学校に行っている間にお母さんだけで集えるようにした」と話

す。昨年7月には、幼児を育てながら避難生活を送る母親をサポートしようと、出前方式の「ままカフェサロン」を始めた。

12月以降は、母親同士が共通した話題を見つけやすいように「よちよちサロン」「すくすくサロン」など子どもの年齢別にサロンを分割し、きめ細かな対応を見せた。

山形市内の一軒家を借り、実家のような雰囲気でゆとりとくつろげる空間を提供する「ままカフェ@home」も4月半ばに開設した。リフレッシュの場として母親たちに活用してもらおう考えた。避難者の母親による自立的交流も後押ししよう

と、昨年11月には三つの育見サークル発足を積極的に支援した。現在も開催時には同NPOのスタッフ1人が顔を出し、裏方の立場でサポートに努めている。同NPO代表の野口比呂美さんは「避難生活が長くなるにつれ、必要とする支援が多様化しつつある。抱える事情もそれぞれ異なるので、さまざまな形で支え寄り添っていききたい」と話している。